



入院患者の転倒転落

転倒・転落事故は外傷や骨折につながり、患者に大きな影響を及ぼします。しかし、一方で転倒転落防止の為に過剰な身体抑制を行うことは、患者の人権を侵害し、患者の身体能力の低下にも大きく影響するため、バランスのとれた管理を行いながら、患者の評価・介助・見守りを強化する事が求められます。

※割合はパーミル（‰）※損傷レベル4以上は2013年より計測。【重度：手術、ギブス、牽引、骨折を招いた、必要となった、または神経損傷、身体内部の損傷の診察が必要となった】場合。

2016年・2017年と減少していた転倒転落件数は増加していますが、治療が必要になるケースは変化していません。また特に重症なケース「損傷レベル4以上の転倒」は、本年ではありませんでした。

病棟別にみると、一般急性期病棟ではレベル3以上が減少し、レベル2が増加しています。

入院患者の転倒転落

分子	転倒転落発生件数
分母	入院延べ日数

表示：月平均



一般急性期病棟 転倒転落インシデント

	Lv5	Lv4	Lv3b	Lv3a	Lv2	Lv1	Lv0
2011年	0	0	0	0	0	4	0
2012年	0	0	0	1	8	11	1
2013年	0	0	0	0	1	8	0
2014年	0	0	0	0	3	2	0
2015年	0	0	0	2	0	7	0
2016年	0	0	0	3	5	6	0
2017年	0	0	1	7	1	8	1
2018年	0	0	0	5	11	9	0

回復期リハビリテーション病棟では、レベル3の件数は大きな変化なく、レベル2・1で件数が大きく増加しました。

軽傷事例の量的分析を行い、未然防止策の強化に繋げることが、求められています。

回復期リハビリテーション病棟 転棟転落インシデント

	Lv5	Lv4	Lv3b	Lv3a	Lv2	Lv1	Lv0
2011年	0	0	0	0	3	1	0
2012年	0	0	0	1	7	11	0
2013年	0	0	0	1	7	0	0
2014年	0	0	1	7	17	16	0
2015年	0	0	0	3	16	15	3
2016年	0	0	0	6	19	15	4
2017年	0	0	2	6	26	16	0
2018年	0	0	2	5	41	32	1